

# フライング福井

(福井県日独友好親善協会会報) NO.3

## 新年のごあいさつ 会長 堀川 馨



新年明けましておめでとうございます。

1999年2月に当協会が設立されもうすぐ3年目を迎えようとしております。この長くとも短くとも取れる期間の間に色々なことが当協会ではありました。1999年10月にはドイツ・ヴィンゼン市において、当協会訪独団の派遣のもとで、県とハールブルク郡およびヴィンゼン市との友好協定が締結され、協定書内にも当協会とヴィンゼン独日協会が今後の日独交流を担う旨が謳われました。

また当協会ではドイツからの親善訪日団の受入等も実施してまいりましたが、昨年の3月には、ドイツ、ハールブルク郡・ヴィンゼン市代表団が来県されました。本県との友好協定書に署名されたアーレンス郡長、ヘーゼマン郡助役、シュレーダー市長、ボーデ市助役をはじめベッケドルフ・ヴィンゼン独日協会会長、レンツ副会長ら6名の錚錚たる方々を、当協会でお迎えできたことは大変光栄なことでした。県内各地の視察もしていただきましたが、先方の希望もあり私の会社(株)シ

ャルマンを企業視察していただきました。この際には、県の代表的産業である眼鏡の製造・販売について理解していただけたものと思いますし、日独の交流等ざっくばらんにお話することができ、お互いが大変気持ち良く接しあえたのではないかと考えています。国際交流会館で開催された栗田知事らとの歓迎レセプションでは、多くの会員の皆様にも参加いただいたわけですが、皆様が代表団の方々と直接会ってお話をしたことで、当協会のドイツに対する熱い思いが先方にも伝わったのではないのでしょうか。

平成14年もドイツからお客様をお迎えし、会員の方々とふれあいの場を多くつくっていきたくて考えておりますので、皆様の積極的参加をお待ちしております。



ハールブルク郡・ヴィンゼン市代表と(株)シャルマン前にて

## ドイツ、ハールブルク郡・ ヴィンゼン市代表団来県

右から ベッケドルフ・ヴィンゼン独日協会会長、ヘーゼマン郡助役、シュレーダー市長、アーレンス郡長、ボーデ市助役、レンツ副会長



永平寺にて

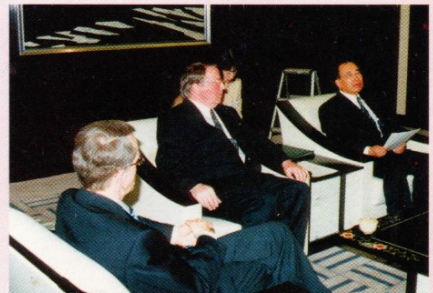
平成13年3月に本県と友好協定を締結しているハールブルク郡・ヴィンゼン市から郡、市、独日協会の代表が本県との友好交流のために来県されました。当協会では代表団の受入れとして、堀川会長の(株)シャルマンや恐竜博物館、大本山永平寺等を視察していただくとともに、3月23日には県と日独協会の共催での歓迎レセプションを福井市の国際交流会館で開催いた



レセプションにて

しました。当日は総勢70名を超える参加者による大レセプションとなり、会場では、国際青年の船事業等で培った旧交を暖めるとともに、多彩なパフォーマンスが繰り広げられ大変盛り上がりまし

た。代表団の団員は、「あまりにも熱烈な歓迎に、感激と驚きでいっぱい。」と感激しておられました。なお、レセプション前の知事との会談では、県内高校(勝山高校と福井商業高校)とヴィンゼン市内の学校(ギムナジウムヴィンゼンと専門職業学校)とがITを活用したインターネットでの交流を開始することで合意しました。当協会としても、今後更なる日独交流の拡大を期待したいと思います。



栗田知事表敬



朝食風景

日独友好親善協会員の皆様には、クリスマス、お正月と、お客様を迎えたり、おもてなしを受けたりすることの多い時期を過ごされたことと思います。ドイツでも、いろいろなお祝いごとや、また日常においても、心からの暖かいおもてなしに嬉しい気持ちで満たされます。

【第一話】お誕生日のお祝いと言えば、日本ではケーキをまず思い浮かべますが、ドイツではお誕生日の人がケーキをごちそうすることはご存じでしょうか？私のかつての職場では、ドイツ人の同僚・上司から花束のプレゼントを受け、そのお礼にケーキを買ってごちそうしたものでした。「祝ってくれてありがとう」というわけです。親戚やお友達を呼んでのお祝い会では、仕事をもっている独身女性は自宅でお料理も大変なので、レストランにご招待する場合があります。この時呼ばれた方は、銘々プレゼントをもっていき、プレゼントはその場であげられるだけでなく片隅に積まれてみんなにお披露目されます。そこで頂く食事は、各自が自分が食べたいもの、飲みたいものをオーダーし、支払いはもちろん、祝われる本人がもちます。ここで、オーダーを各自の好みに任せるところは、ドイツ人らしいところですね。必ずしもみんな一緒に同じ物をというわけではありません。そういえば、ケーキをごちそうした時も、個々人が食べたい種類と数だけ頼んでいたもので、いつも一つしか食べなかった私は、ごちそうされるより、した数の方が多かったような・・・。

【第二話】自宅にドイツのお客様を迎える日本人家庭では、あれこれ、何をごちそうするか迷われるようです。すき焼き、天ぷら、寿司・・・？もちろん、こうした

フレンチダイニング

## ドイツのおもてなし アレコレ話。

村田幸子



「ごちそう」も喜ばれるには違いありませんが、何かのお祝いごとというのでなければ、たいていは普通のお食事で十分でしょう。ドイツの一般的家庭では、朝食に1, 2種類のパン、植物性マーガリン（昔はバターが一般的だったが、最近はやはり健康ブームで植物性に切り替えたところが圧倒的）2, 3種のジャムにチーズ、それにコーヒー、紅茶か子供のいる家庭ではフルーツジュースや牛乳程度です。それが、毎日毎日、変わらぬメニューで出てきます。夜は、この朝食メニューに、ハムや卵かグリーンサラダがプラスされるだけです。お昼はもちろん、色々な暖かいお料理を頂いているとはいえ、よく毎日飽きないものだと最初はびっくりさせられました。私の知り合いのドイツ人は、日本人家庭に4日ほど滞在し、朝食の卵料理が目玉焼き、玉子焼き、ゆで卵と毎日変わることで驚いたようで、自分たちの為にわざわざ毎日違うメニューにしてくれていると恐縮していたそうです。ですから、ドイツ人家庭で平日の夕食に呼ばれたといっても、そんなに大げさに構えることはありません。お花か、お菓子など簡単なお礼の気持ちを持っていけば十分です。それでも、この気軽なお招きの後、満たされた気分になれるのは、くつろげる雰囲気の中、食後に進められる手作りのお酒や楽しい会話など、「おもてなしの心」そのもののおかげでしょう。（注：週末の夕食には、奥様手作り料理の数々が並ぶことがあります。）



誕生パーティ風景

# ドイツ語講座を受講して

西畑光広



一番手前右が西畑氏

「今晚は」と教室に入る。美人の村田先生から「グーテンアーベント」の返事、あわてて「アーベント」と言い直す。約20名の方々と4回の講座を受講して、恥ずかしながら覚えたのはほんのわずか。

想えば30数年前大学受験の当日、一浪の受験生から Ich liebe dich を教わった。その時の彼は外国語をドイツ語で受験したのであろう。後に私はその言葉をいつか言える時を楽しみにしていた。しかし、長い間の封印。

突然十数年前私の弟が外国に行くことになった。自分の店を持ちたいと料理学校に通い、そしてなぜか遠方の国ドイツへ飛び、数年後念願の寿司店を持った。私にと

ってドイツは工業、環境等の先端の国で憧れの国でもあった。

3年前福井県日独友好親善協会の発足を知り、早速入会させて頂き、その年協会でのドイツ訪問の機会に恵まれた。ドイツでのホームステイは片言の英語であったが、パートナーの林氏に助けられた。

今後は、素敵な村田先生に連れていってもらってもよいが、私個人（夫婦や身内）でドイツを訪ねたいとの希望を持っている。

村田先生のドイツの状況を踏まえてのドイツ語講座は大変参考になり、貴重な経験であった。特に二人一組と三グループによる授業はドイツ語を勉強する意欲をかき立ててくれ、受講して本当によかった。来年度も講座開設を望む一人です。いろいろとフィーレンダंक。



講座風景

## ドイツ関係書籍のご紹介

林 主計

独断と偏見ですがご紹介させていただきます。

「ドイツ感覚」(岩村偉史著 三修社) 著者はドイツ連邦共和国大使館勤務で日本人が理解できるように丁寧に多岐の分野を「ドイツとドイツ人を知る22章」にわけて紹介しております。一例を示しますと、気候、風土、ドイツ語とは、食文化、交通システム、環境問題、学校など肩の凝らない語りで一気に読める楽しい一冊ではないでしょうか。

「ドイツ節約生活の楽しみ」(サンドラ・ヘフェリン著 講談社) カッパ・ブックス育ち、現在日本で環境市民の会で活躍中。「世界一ケチ」といわれるドイツ人女性。でも日本人女性よりずっと豊に暮らしているのはなぜ? 生きるための知恵がこの本にはぎっしり書かれております。

次の本もお薦めです。「捨てない生活」(クライン孝子 ポプラ社)「ドイツ婦人の家庭学」(八木あきこ 新潮文庫)



## 日本とドイツの 違いについて

アンチェ シュトク  
(Antje Stock)



私は昨年十月ドイツのハンブルクから来た留学生です。今年の九月まで福井大学で日本語を勉強します。

まだ福井に来て間もないので、あまり福井については知りません。しかし、十年前に新潟県で一年間ホームステイして、高校に通いました。その時ドイツとの違いを見つけました。たとえば、日本では商品が大変きれいに包装されていますが、たくさんのゴミを出すことになると思います。スーパーで買い物をして商品は何枚もの袋に入れられます。ドイツではゴミをもっと少なくするためにあまり包装されず、ビニール袋は有料です。また各自は布袋を持って買い物をします。最近では日本でも自分で袋を持っていく人を見かけますし、十年前と比べるとゴミもよく分別されているのが見られます。

私は今福井大学まで自転車で通っています。そこで気付いたことは、毎朝、会社員や店員が路上で落ち葉を掃いていることです。ドイツでは会社員がみんなと一緒に落ち葉を掃くことはありません。たとえば、町の清掃局が路上をきれいにしたり、アパートの持ち主が自分のアパートの前を掃くだけで、一般住民が落ち葉に気を付けることはまれです。また掃き箒もドイツのもの比べると短く、腰に悪いのではないかと思います。

最後に、福井の町の中はとても清潔な印象を受けました。

## はじめてのドイツ

黒川 剛陽



中央が黒川さん

私が国際青年の翼のドイツコースを希望した背景には、以前乗っていた車がドイツ車だった、学生時代にドイツ語を取っていた、サッカーが大好きだからとありますが、一番の理由はドイツが最も経済的・文化的に発展し洗練された都市だと思っていたからです。

実際にドイツは歴史的な建造物から現代的なものに至るまで、すばらしかった。でもホームステイで過ごしたヴィンゼンのまちは田園地帯に囲まれた小さなまちで、私のイメージしていたドイツとは大きく違っているように思いました。衣食は決して贅沢せず、家庭的であたたかいまち。それは私達日本人が忘れてしまった暮らしやゆとりがありました。私達が大きく変わり過ぎたのだと強く感じました。

## 福井国際フェスティバル2001への協力

平成13年11月11日(日)国際交流会館で国際交流・協力をテーマに開催された福井国際フェスティバルに当協会も参加協力しました。当日、チラシを配布するとともに、ドイツのワインやお菓子を提供して、ドイツ文化への理解に努めました。なお、期間中には数名の入会の申し込みがありました。



## NEWS



左がボド・ベッケドルフ氏

## ベッケドルフ氏が ヴィンゼン市長に就任!

平成13年11月8日(金)にヴィンゼン市市長選挙が実施され、福井県国際青年の翼事業等でお世話になっているヴィンゼン独日協会長ボド・ベッケドルフ氏が当選し、同日市長に就任されました。今後更に福井県との友好交流が進むことを期待します。

発行：福井県日独友好親善協会  
〒910-8580福井市大手3丁目17-1  
福井県県民生活部国際課内  
TEL：0776-20-0294  
FAX：0776-22-1702